

令和5年11月 8日
(2023年)

保護者の皆様へ

吹田市立山田東中学校
校長 西田 知子

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果

(1) 国語

ア) 調査結果の概要

全ての領域・観点・問題形式において全国値を上回る結果であった。しかし、記述式の設定は、ほかの問題形式に比べると無解答率が高い傾向にある。全国的にも同じ傾向にあるものの言語力や思考力の育成に今後一層取り組んでいきたい。

イ) 課題及び指導改善のポイント

①設問1四

インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く設問。正答率は全国値をやや下回っており、無解答率は全国値をやや上回っている。インタビュー内容を具体的に挙げて書くことはできているものの、インタビューを通して自分がどのようなことを考えたのかを書くことができていない傾向にある。

②設問2四

自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く設問。正答率は全国値をやや下回って

いる。自分の読書に関する経験や知識に触れて書くことはできている一方で、文章から自分が着目した部分を抜き出すことができている傾向にある。

【指導改善のポイント】

- ① 複数の情報を関連づけて自分の考えをまとめる作文の機会を増やす。
- ② 意見と根拠の関係に注意して文章を書いたり、話し合ったりする活動を積み重ねていく。
- ③ 問われていることに対する解答になるように、問題文を正確に読み取ることを指導する。

(2) 数学

ア) 調査結果の概要

各領域において全国値を上回っている。しかし、無解答率は全国値に比べやや下回っている問題がほとんどである。また、用語の定義や性質を理解しているかを問う問題は分野に問わず正答率が低い傾向にある。

イ) 課題及び指導改善ポイント

① 数と式／設問1

選択肢の中から自然数をすべて選ぶ問題。正答率は全国値を上回ってはいるが、同領域の他の設問と比べ低い。

② 図形／設問3

空間における平面を決定する条件を問う問題。正答率は全国値を上回ってはいるが、他の設問と比べ低い。

③ 関数／設問8(3)

与えられたグラフや式を用いて、二人の選手が追いつく地点を求める方法を説明する問題。正答率は全国値を上回ってはいるが、無解答率についても全国値を上回っていた。

④ データの活用／設問5

最小の階級から決められた階級までの相対度数を求めて記述する問題。正答率は全国値とほぼ同じであり、短答形式の他の設問と比べ低い。

【指導改善のポイント】

- ① 用語や性質の意味の定着が不十分であるため、既習の用語でも日々の授業で確認する機会を増やす。
- ② 自分の考えや意見をまとめて話したり、記述したりする機会を作り、記述式の問題に対して無解答にならない態度を養う。
- ③ 与えられた条件を整理したり、どんな性質が利用できるか考えたりして、事柄が成り立つ理由を数学的に説明する活動を充実させる。
- ④ データを分析し、判断することに興味を持ち、分析することができる力を育成する授業をする。

(3) 英語

ア) 調査結果の概要

すべての領域・観点・問題形式において全国地を上回る結果であったが、話すこと【やり取り】や話すこと【発表】や書くことに課題がみられる。全国的にも正答率の低い設問ではあるが、特に話すこと【やり取り】に関しては、低い正答率となっている。また、書くことに関しては、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことは、低い正答率となっている。

イ) 課題及び指導改善ポイント

① 聞くこと

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるという設問では、正答率は全国地を上回っているが、低い正答率となっている。

② 読むこと

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる、また、日常的な話題について、短い文章の概要をとることができるという設問で、低い正答率となっている。

③ 話すこと【やり取り】

未来表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身につけているか、また疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身につけているか、についての設問が低い正答率となっている。

④ 話すこと【発表】

社会的な話題に関して考えとその理由を話すことができるか、についての設問に対して低い正答率となっている。

⑤ 書くこと

書くことに関して、特に日常的な話題について事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くについての設問が低い回答率となっている。その他にも、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる、また疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができる、についての設問について低い正答率となっている。

【指導改善のポイント】

① 聞くこと

音声、語彙、表現・文法など外国語の特徴や決まりに関する理解のほかに、聞くこと、読むこと、話すこと【やり取り】、話すこと【発表】、書くことを活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能の定着を図る。

② 読むこと

書かれてある内容を文字通り正しく理解するために、語句や表現、文法

などの知識を定着させる必要がある。

③話すこと【やり取り】

自分の気持ちや考えを伝え合う活動を重視した授業展開が必要である。

④話すこと【発表】

単なる教科書の音読のような指導ではなく、生徒自身が自分の考えを英語で伝える活動を授業でたくさん取り入れる。簡単な英語で伝える経験を積み重ねることが重要となる。

⑤書くこと

日常的な話題、社会的な話題など様々な話題に関して、生徒自身の考えや理由などを整理し、書くことができるように日ごろの授業内でも簡単な英語で自身の気持ちを伝えたり、書いたりする活動を増やしていく。

II. 生活習慣や学習環境に関する調査結果

(1) 学習環境・生活環境について

質問(4)『自分には、よいところがあると思いますか』、質問(15)『普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか』では、全国値を上回っており、自尊感情や自己肯定感が高くなっているといえる。また、質問(17)『学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか』では全国値を上回っており、学習環境が整っていることが見て取れる。

一方で、質問(2)『毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか』、質問(3)『毎日、同じくらいの時刻に起きていますか』、質問(16)『家で、自分で計画を立てて勉強していますか』については全国値を下回っており、見通しをもって、自ら計画を立て勉強に取り組むこと、「よい睡眠の確保」「適切な就寝時間」など生活を整えていく姿勢を育むことが急務といえる。

生徒には、学校のみならず家庭でも自主的な学習を行えるよう成長してもらうべく、各教科や総合の時間、道徳の授業などで自ら学ぶ重要性や就寝時刻が遅くなると睡眠不足となり、体調や心の不調、学習意欲の低下につながることから、自らの生活習慣を整えることの重要性を浸透させていきたい。

(2) 教科・学習について

教科については、質問(48)『国語の勉強は大切だと思いますか』、質問(56)『数学の勉強は大切だと思いますか』、質問(60)『英語の勉強は大切だと思いますか』についてそれぞれ全国値を上回っているにもかかわらず、質問(58)『数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか』では、全国値を下回っていることから、自ら、その教科の学習の大切さにより深く気付けることができるよう指導していきたい。

また、質問(20)『学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか』についても、全国値を下回っており、

学校の朝読書を活用しながら読書習慣をしっかりと定着させ、読書の良さに気づいてもらいたい。

Ⅲ. 学力向上のための今後の取り組み

本校では、学校経営方針に「生徒が学ぶ喜びを知る授業づくり」を明記し、授業規律の徹底と授業改善に取り組んでいます。また、保護者の皆様には学校教育に関心を持っていただき、ご支援・ご協力も賜っています。そのお陰で、調査結果は学力面だけではなく自尊心や自己肯定感といった生徒の内面に關わる数値も向上傾向にあります。そこで、本校の取組内容を以下のように分析し、さらに課題が解消されるよう継続的・重点的に取組みを進めてまいります。

【学習意欲の向上に向けて】

(1) 主体的・対話的で深い学びについて

質問(40)『学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか』や質問(46)『道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか』などについて、肯定的な回答が全国値を上回っており、今後も、各教科で生徒主体の活動の機会を増やししながら、生徒自身が深い学びを得られるよう取り組んでいきたい。

(2) 個に応じた指導と情報機器を活用した教育の推進

質問(26)『1, 2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか』では、肯定的な回答が全国値を上回っている一方で、質問(33)『1, 2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか』では、全国値を下回っていることもあり、今後は一人一台のPC等の情報教育機器を活用することで個に応じた指導、学力向上を図っていきたい。

【生活習慣の確立に向けて】

質問(12)『学校に行くのは楽しいと思いますか』では、肯定的な回答が全国値を上回っており、現在、子どもたちは落ち着いた態度で学習に取り組んでいます。生徒一人ひとりの生活リズムの向上は、地域社会の協力もいただきながら、保護者の皆様と協働して取り組んでいくことと考えています。今後とも、ご理解、ご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。